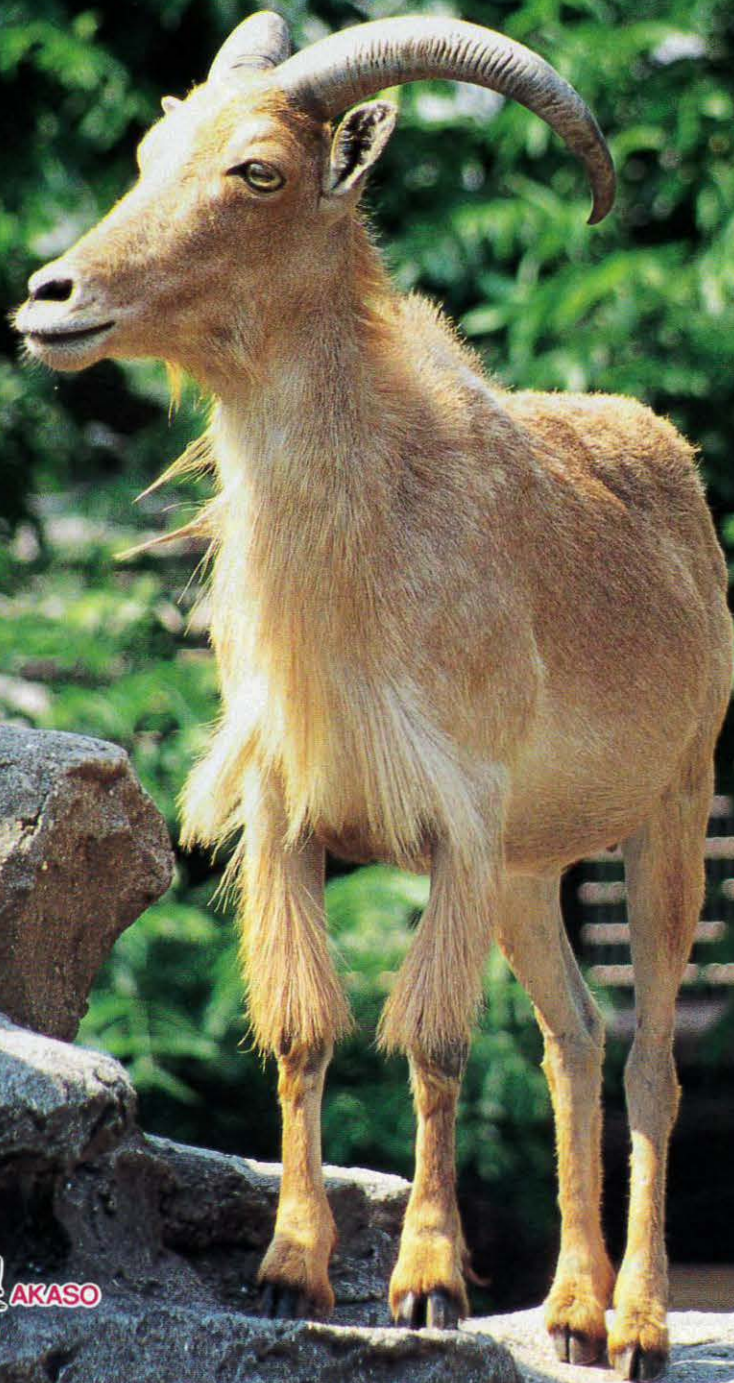




# なきごえ



1994

7

OSAKA  AKASO

大阪市  
天王寺動物園協会



(撮影：吉本 昌俊)

- 2 — New Face 今年もコウノトリが繁殖(吉本昌俊)
- 3 — 動物と私 猫に謝らなければならないこと(清水慶子)  
カバーウォッチング バーバリシープ
- 4 — 小笠原の歴史とアオウミガメ(菅沼弘行)
- 6 — 飼育下の動物行動調査とその解析III(最終回)  
—ニホンザルの配偶関係を調べる—  
(大野尊信、早川 篤)
- 8 — グラフZOO タンチョウの子育て(森本委利)
- 10 — 動物なんでも相談(宮下 実)
- 11 — ZOO DIARY

## New Face

## ||||| 動物と私 |||||

### —猫に謝らなければならないこと—



清水慶子さん

(京都大学霊長類研究所)

ひと昔も前のこと、当時、学校を出たばかりの新米獣医師だった私は、犬や猫など小動物の診療技術を知るために、ある動物病院に勤めました。そこで、教科書通りではない実際の診療や手術の方法を知るわけです。そこでは、まず先輩獣医師の診察の助手をしながら、どういった検査をし、どんな病気を疑うのか、そして、どういった薬を使うか、などを見様見真似で覚えていきます。手術に関しても同じです。先輩獣医師の手術助手をしながら、実際に覚えるのです。皆さんが飼っている犬や猫の獣医さんも最初はこのようにしてその腕をあげてきたのだと思います。

私もそのように先輩の助手を半年ほど続けたある日、やっとメス猫の避妊手術をさせてもらえるようになりました。これは子供ができないように、卵巣と子宮を取ってしまう手術ですが、慣れた獣医師にとってはそう難しい手術ではありません。それでもやっと手術をさせてもらえるようになったばかりの、当時の私のような新米がする時は、熟練した先輩が助手をしながら行うのが常でした。

緊張しながら麻酔をかけ、猫が寝てしまうと、

### 今年もコウノトリが繁殖

コウノトリ目  
コウノトリ科

3月下旬に、ニホンコウノトリが昨年に続いて産卵し、4月下旬に3羽ふ化しました。親がはきもどした餌を食べ、3羽とも元気に育っています。



### カバーウォッチング

バーバリシープ

ウシ目 ウシ科

*Ammotragus lervia*

アフリカにいる唯一の野生ヒツジで、アトラス山脈の険しい岩山に住んでいます。オス1頭と数頭のメスから成る群をつくって生活しています。

(撮影：堀内智生)

メスを入れるお腹の部分を丁寧に消毒し、細菌感染を防ぐために布で手術部位以外の全身を覆いました。そしてお腹を少しメスで切り、先が曲がった器具でお腹の中の卵巣を探したのですが、教わった通りやっても卵巣は出てきません。先輩がするのを横で見ている時はとても簡単そうに見えたのに、いくらやっても卵巣は見つかりませんでした。横で助手をしている先輩は怒るし、麻酔だってそんなに長くは効きません。猫は動き始め、あせって、頭に血が昇り何がなんだか分からなくなり、ついに先輩に選手交替しました。先輩は、「こうやるんですよ。」と少しいばってお手本を見せようとしたのですが、今度は先輩がいくらやっても卵巣は出てきません。結局、きっと、この猫は生まれつき卵巣がないんだろうとのことで手術をあきらめ、お腹を閉じました。

ところが、すべてが終わって全身を覆っている布を取り、檻に戻そうとして抱き上げた時、ふと見ると、股間に丸いものが2つついているではありませんか。なんと、この猫はオス猫だったのです。かわいそうに、この猫は後日、今度はオスのための去勢手術を受け、その後、私の家の猫となりました。これが私の初めての手術でした。

これ以来、オス猫を見ると、あの時の事を思い出し、ごめんなさいと謝ってしまいますし、捨て猫を見るとすぐに拾ってしまい、家にはいつもオス猫がいます。また、これが原因かどうか、私は犬猫の診療は辞め、おサルさんの研究所に勤めを変えました。サルは犬猫と違い、オスとメスの体の大きさに差があり、今の所、このような失敗はなく助かっています。

(しみず けいこ)

# 小笠原の歴史とアオウミガメ

ウミガメ類の保護とはー  
菅沼弘行 (小笠原海洋センター副館長)

小笠原諸島は東京の南約1000kmに位置し、4つの列島(鯉島・父島・母島・火山列島)と3つの孤立した島々(西ノ島・南鳥島・沖の島)から成り立っています。小笠原の年平均気温は23℃で、海洋性の亜熱帯に属します。これらの島々の大部分は海底火山が隆起してできたもので、島のまわりは急峻な崖に囲まれており、その間に小さな砂浜が点在します。父島には約1700人、母島には約450人の人々が住んでおり、ほぼ1週間に1度の定期船が唯一の交通手段として、東京と小笠原の間を行き来しています。

小笠原では、12月になるとザトウクジラが繁殖のために来遊してきます。2月頃からホエールウォッチングの観光客で小笠原は賑わい、島の人口は2-3倍にも膨れ上がります。ザトウクジラの親子をよく見かける4月には海も静かになり、島のまわりでは交尾しているアオウミガメの姿が見え始めます。小笠原では交尾



交尾するアオウミガメ。顔を上げているのがメス

中のアオウミガメはペアーと呼ばれ、メスの甲に必死にしがみついているオスの様子はなかなかユーモラスです。さざ波に揺られながら、前肢にある湾曲した1本の爪をメスの甲の縁に掛け、長大な尾をメスに絡ませ交尾します。また、時としてメスがオスを拒否する行動も見られます。その方法としてメスは海面に甲を高く浮かせ、オスが乗ろうとするのを物理的に不可能(オスはメスに乗ろうと必死に努力しますが、その度に滑り落ちてしまいます)にしたり、尾を折り曲げて総排泄孔を隠し拒絶したりします。

一般にウミガメ類は、アオウミガメ、アカウミガメ、タイマイ、ヒラタウミガメ、ヒメウミガメ2種、オサガメの計7種が世界の熱帯を中心

とした海域に生息しています。このうち東部太平洋のアオウミガメを別種(クロウミガメ)とする科学者もいます。日本ではアオウミガメ、アカウミガメ、タイマイの3種が産卵しています。特にアカウミガメについては、日本が太平洋の最大の重要な繁殖地ですが、このことはあまり日本では認識されていません。また、アオウミガメの日本最大の繁殖地は小笠原です。小笠原以外では屋久島や沖縄でもアオウミガメの産卵が見られますが、数はそれほど多くありません。

小笠原の梅雨は、本州よりも1か月ほど早く5月の連休あたりから始まります。ちょうど時を同じくしてアオウミガメの産卵も始まります。ピンポン玉のような約100個の卵を1回で産み、2週間ほどの間隔をあけて産卵を4-5回繰り返して行きます。つまり繁殖期の1シーズンで400-500個の卵を1頭のメスが産卵することになります。この産卵パターンは3-4年毎に数回繰り返して最高4回行うことが、



夜、ボートで海岸をパトロールし、産卵に上陸したメスを捕まえ測定する。標識を装着後放流する。

産卵上陸するメスの標識放流によりわかっています。簡単に書いていますが、このことを調べるだけでも10年以上の歳月がかかります。ウミガメの調査や研究はよく言われるカメの歩みと同じくゆっくりと地道な努力が必要なのです。小笠原海洋センターでは、13年間にわたりアオウミガメの調査を行っています。まだまだ解きあかせない神祕がウミガメには多くあります。

今から164年前の1830年まで小笠原は無人島でした。当時はマッコウクジラを対象にしたアメリカの捕鯨が盛んな頃で、ハワイに捕鯨船団の基地がありました。当時はまだ日本は鎖国していたのですが、日本近海にジャバングランドと呼ばれるマッコウクジラの生息域が見つかったので。そこで小笠原を第二の基地にするために、欧米系の人々がハワイのカナカ族を20名ほど連れて移住してきました。その頃のハワイはウミガメを食用として盛んに捕獲しており、当然アオウミガメが繁殖にやってくる小笠原でも彼らはアオウミガメを食べ始めました。ところが肝心の捕鯨基地の方はアメリカに石油が見つかったことにより衰退し、移住してきた人々は太平洋の孤島に取り残されることになったのです。

1876年(明治9年)、小笠原が日本領土となり、彼らも日本に帰化したのですが、ウミガメ漁の慣習もそれとともに残されました。また、当時の日本は小笠原へ盛んに移民させ、ウミガメ漁を産業として奨励していました。明治初期には年間3000頭ものアオウミガメを捕獲していましたが、わずか20年ほどでその数は4分の1以下になってしまったのです。昭和初期にはその捕獲量も200頭前後となりました。国の機関である農商務省は資源の増殖を図るために、アオウミガメの人工ふ化放流事業を1910年(明治43年)に開始しました。しかし、第二次大戦で中断されるまでの30年間にわたる人工ふ化放流事業も、「ふ化率が低く放流頭数(年平均約1300頭)も少なかったために、資源を回復するには至らなかった。」と東京都水産試験場により報告されていますが、資源が回復しなかったのはどうやらこれだけの理由ではないようです。

1968年(昭和43年)、アメリカの統治領であった小笠原が日本に返還され、その5年後に東京都により人工ふ化放流が試験的に再開されました。返還までのアメリカ占領時代もウミガメ漁は継続され、年間20-30頭くらいが捕獲されていました。返還後も小笠原の人口増加とともに漁獲量は増加し、今でも年間100-150頭捕獲されています。しかし、返還後の人工ふ化放流の放流頭数(年平均約6000頭)はふ化率も上がり、戦前と比べて飛躍的に増加しているにも関わらず、その効果は今のところ見られていません。戦前の30年間、返還後の26年間の人工ふ化放流事業の意義をここで見直す必要ができました。

アオウミガメの資源を増やすために小笠原で行われてきた人工ふ化放流は、漁業者が捕獲した親亀をいけすに入れて、産卵した卵をふ化場に移し、ふ化させ放流するという方法で行っています。これは世界でもあまり例を見ない方法です。普通は海岸に産みつけられた卵を、密漁者や捕食動物などから守るために移動させる方法が主に行われています。前者はウミガメを捕獲することを前提にした方法で、後者は卵の保護を主体としています。しかし、小笠原のように捕獲を続けながら資源を増やそうとすることや、他地域で行われている密漁や捕食動物などから卵を守るというのは本当にウミガメの種を保護することにつながるのでしょうか。最近の研究での答えは「ノー」です。この2つの方法には共通点があります。それはふ化場に卵を移した時点から後の過



子供達を中心とした稚亀の放流会。宮崎県では、アオウミガメの保護のために行った数年にわたる放流会の成果で、卵の密漁が無くなった。を、密漁者や捕食動物などから守るために移動させる方法が主に行われています。前者はウミガメを捕獲することを前提にした方法で、後者は卵の保護を主体としています。しかし、小笠原のように捕獲を続けながら資源を増やそうとすることや、他地域で行われている密漁や捕食動物などから卵を守るというのは本当にウミガメの種を保護することにつながるのでしょうか。最近の研究での答えは「ノー」です。この2つの方法には共通点があります。それはふ化場に卵を移した時点から後の過

程が全く同じだからです。この他にも共通点はあるのですが誌面の関係上ここでは述べられません。

卵を1カ所に集めふ化させることの危険をここで考えてみましょう。まず、ウミガメ類の卵はそのふ化温度で雌雄が決定されることが最近になってわかってきました。そのため卵を1カ所に集めると性比が偏る危険性があります。実際、かなりの地域ではオスがメスよりかなり高い割合で生産されているという報告があります。また、ウミガメは回遊することで知られています。成熟後に繁殖地に戻ってくるためには、サケが川のおいを覚えているように卵や稚亀の時期に刷り込みが起ると言われており、その時期に人工下にあるため間違った刷り込みが行われる危険性があります。

この他にも資源を増やすためにヘッドスターティングと呼ばれる、稚亀を捕食者から守るためにある程度の大きさに育てて放流する方法もあります。最近の研究では稚亀が海に入って捕食される率はかなり低いといわれています。それにも関わらず、いまだに多くの地域でヘッドスターティングが行われていますが、資源を増やすという意味では、どうも人間は長い間無駄なことをやってきたようです。

二のようにウミガメの世界では今まで保護と  
思ってきたことが、そうではないらしいという事に近年になって一部の人は気づきだしました。ウミガメを絶滅させないように、私たちが



稚亀がふ化した後の巣穴をひとつひとつ掘り出しふ化率を調べる。長年のこのような努力が、ウミガメの場合は資源を守る近道となる。

1段階です。これには護岸工事や海岸の砂を少なくしている川の堤防などのことも含まれます。その次に、ウミガメに少し迷惑をかける標識付けや少数の実験的なヘッドスターティング、回遊を調べるために位置を出す人工衛星発信器の装着などを行う必要もあるでしょう。密漁者や捕食動物から卵を守るつもりでただひたすら卵を根こそぎ集めまわり、ウミガメを保護していると情熱を傾けたつもりがウミガメを絶滅させてしまったら、笑い話にもなりません。しかしウミガメの世界では、この笑い話が起こる可能性が現実には驚くほどたくさんあるのです。

(すがぬま ひろゆき)

# 飼育下の動物行動調査とその解析III(最終回)

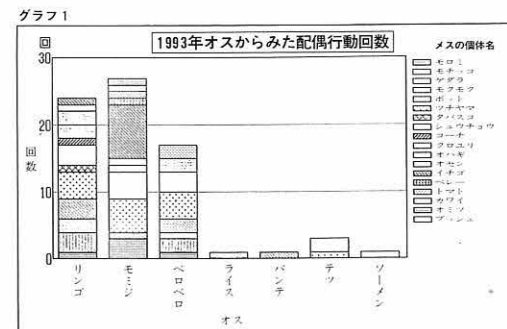
## ニホンザルの配偶関係を調べる

今年もニホンザルの配偶関係の調査結果を発表します。今回は1993年10月～1994年2月までの交尾期のものです。前回、前回と比べてみて特徴的なシーズンだったといえます。この前ぶれは1993年の出産結果(表-1)にすでに表わっていました。死産1頭を含めて17頭という多くの赤ちゃんが生まれています。すなわち出産可能な大人メスのほとんどが産しました。当然経産のものが多く、3年連続出産した個体もありました。

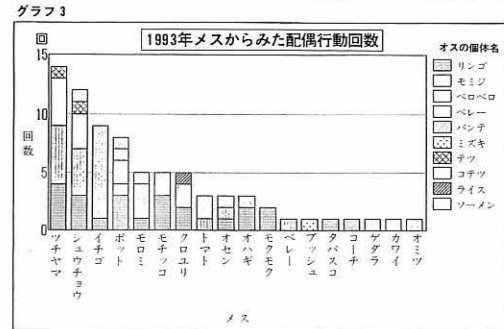
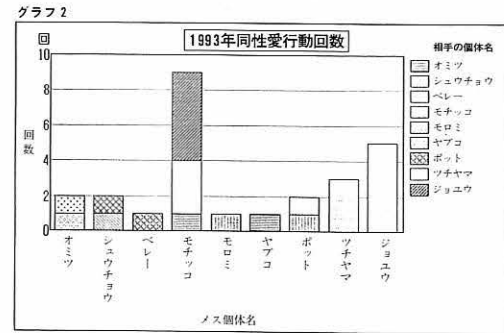
日付	メス名	仔名
4/16	ナガシマ♀	母レフト
4/21	ドウジマ♀	アサヒ
4/24	キリシマ♀	ブッシュ
4/25	ヤシマ♀	オセン
4/26	シキシマ♀	オハギ
4/27	ツシマ♀	クロユリ
5/9	クニジマ♀	ゲグラ
5/16	ウエシマ♀	イチゴ
"	ミシマ♀	オミツ
5/18	コウシマ♀	カワイ
5/19	カシマ♀	トマト
5/30	テシマ♀	モロミ
"	フクシマ♀	モチッコ
6/6	トメシマ♀	バリッコ
6/24	シマジマ♀	エチゼン
7/10	ミヤジマ♀	ハンニヤ

一般的にニホンザルは隔年に産するものが多いといわれています。子育て中の個体は発情がおきなかったり、時期が遅れます。そのため、1993年秋の大人メスの発情は大幅に遅れてしまいました。配偶関係を初めて確認したのは10月6日でした。確認されたのはアルファオス(従来ボスといわれていたオス)“モミジ”と1993年に産しなかった“ツチヤマ”でしたが、本格的なものとはいえ、“モミジ”の一方向的な追尾行動にやむをえず足を止めた横に“モミジ”が座った程度のものでした。同様の行動を10月中には一度見ただけでした。それ以降サル山には静かな穏やかな秋日和がおとずれ、ヒステリックなメス間の争いや、赤く色づいた糞丸をほこらしげにディスプレイする大人オスの姿も認めることはありませんでした。昨年の秋は、近年まれにみる冷害による米不足が社会問題になりました。数10年ぶりというこの気象異変が、もしかしたらニホンザルにも何か影響

したのではと感じたほど、何もないサル山の秋でした。一時は真剣にこのまま今シーズンは終わってしまうのかと思ったほどでした。もしこのままだと実は困ることがありました。3年続けているこの調査のデータが取れなくなると、この「なきごえ」に発表する機会を失ってしまうからです。季節はめぐりモミジが落葉しようかという、晩秋から初冬ともいえる11月の下旬になって、ようやく大人メスの発情が始まったのか、“オハギ”、“クロユリ”、“コーチ”、“トマト”達に遅ればせながら例年通りの配偶関係を確認するようになりました。12月に入ると、ほぼ毎日のようにいくつかのカップルができあがり、若オスの“ミズキ”、“テツ”、“ライス”も繁殖戦略にかかわってくるようになりました。ただ、“ミズキ”や“バンテ”が昨年の“ナチグロ”(出園)のように、“モミジ”によるものと考えられる攻撃をうけ、かなりの深手のキズを負いました。昨年攻撃を受けた“ベロベロ”は今シーズンはもう“モミジ”に黙認されているようで、直接的な攻撃は受けていないようでした。若オスのまるで大人のまねごとのような性行動に対して“モミジ”は全く動揺しませんが、大人オスと認められる存在になりつつある個体の行動は気にかかるのでしょう。“リング”も“ベロベロ”も一度は“モミジ”の攻撃の洗礼を受け、今はりっぱな大人オスに成長しました。他の動物園のサル山はどうか知りませんが、当園のサル山での通過しなければならぬ儀礼なのでしょう。オスからみた配偶行動の回数はグラフ1のとおりでした。

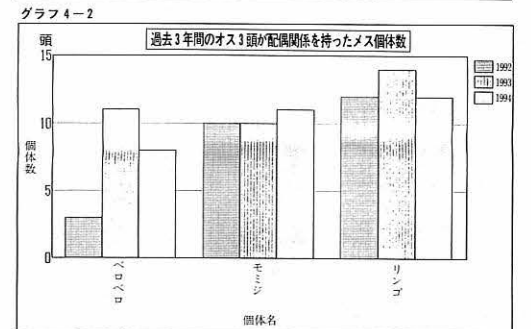
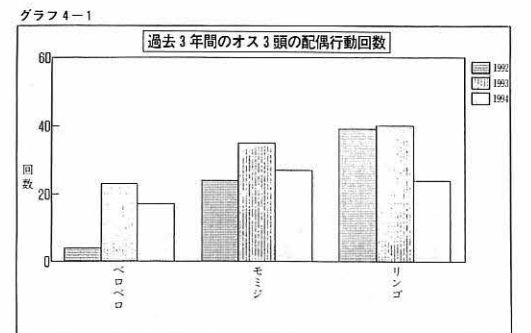


次に、昨年発表しましたメス間の同性愛行動は、今回も多く観察しました。前回は、“オミツ”のその行動が顕著でしたが、今回は“モチッコ”に目立ちました。グラフ2とグラフ3



にみられるように、オスとの配偶関係と同性愛行動に相関がはっきりとみられます。1993年に産したメスには両行動の観察例が多くありません。むしろ、今シーズンの主役は、はたして産できるのか疑問視される亜成熟の“シウチョウ”、“ポット”、“ジョユウ”でした。大人メスでは“ツチヤマ”、“モチッコ”ですが、“ツチヤマ”は未経産、“モチッコ”はまだ育児に成功していません。“モチッコ”の同性愛行動は実に見事なものでした。時には尾をそりかえし、まるでオスと見間違えほど堂々としたマウント行動をしばしば行っていました。ニホンザルのメス間の同性愛行動は、特別でも異常でもありません。繁殖期に起きるごくあたり前のものといえます。(オス間の同性愛行動の報告もあります。)昨年7月号の「なきごえ」に同性愛を報告して以来、いくつかのマスコミの取材を受けました。いずれもがヒトのそれと同じ意味でとらえられ、擬人化された見方をされました。しかし、ニホンザルをはじめ、多くのサル類で同性愛行動の報告があります。一部を除けば繁殖期におこるもので、限られた期間だといわれています。又、ある種のサル類でのオス間の同性愛行動が社会的な意味をもち、緊張を緩和する効果があるのではないかと最近、報告されています。サルの場合、何が擬人化で何が擬人化でないかの区別はむづかしいかもしれませんが、いずれにしても、情緒的なものだけでなく、科学的なデータに基づいた情報として、動物園はとらえられなくてはという気がします。

オスの配偶関係のベスト3は昨年同様“モミジ”、“リング”、“ベロベロ”でした。グラフ4-1、4-2からアルファオスの“モミジ”は“リング”に個体数では少し劣っているように見えますが、回数ではわずかに上まわっていることが分ります。



しかし、これは大きな意味があるとは言えません。むしろ、“ベロベロ”の比重が大きくなってきていることがはっきり分ります。“ベロベロ”とはいつも舌をだしているのでも識別しやすい個体であり、山の頂上部でよくジャンプする行動も目立ちます。一般の人の、山のとっぺんにいるのがボス(アルファオス)だという認識からすれば、彼がボスという判断をされるかもしれません。又、尾を上げて歩いているのがボスだという見方をすれば、“リング”がそう見えることでしょう。しかし、信頼度からすれば、いずれも“モミジ”にはとうていかないません。順位をつけるとすれば、“モミジ”、“リング”、“ベロベロ”ということになるのでしょうか、当園のサル山で社会的に意味のあると見ることはできません。

一 特徴的なシーズンの結果が1994年の出産に見事に表われました。5月末現在、昨年なら同じ時期に12頭がすでに産していましたが、今年は5月14日に初産の“ポット”がオスを産しただけです。(育児を放棄したため人工哺育中)。今後の出産予定のメスは換毛の状態からみてかなり少ないと思われます。

最後に、ニホンザルの社会を理解するには、あまりにも期間が短く、一部の行動観察に終始しました。そしてこの間、色々な所でニホンザルの情報を手に余る程得ることができました。それらと、当園とを比較したり、野生のニホンザルを追ったり、いくつかの野猿公苑をたずねたり、関係者に会ったりしてニホンザルについて多くを学ぶことができました。私にとってはサル山はまさしく宝の山でした。

(飼育課: 大野尊信、早川 篤)  
「なきごえ」1992年7月号、1993年7月号も合わせてごらん下さい。

# グラフZOO

## ● タンチョウの子育て ● (観察ノートから)



'94年4月28日

今年、タンチョウは3月31日と4月2日に産卵し、5月3日と4日にそれぞれ1羽ずつ無事ふ化しました。

タンチョウ夫婦の愛情あふれ子育てぶりをちょっとのぞいてみましょう。

(撮影：森本 委利)

### 抱卵

ツルは卵を普通2個産みます。抱卵は最初の産卵から始めますので、2卵目のふ化日は遅れます。



'94年4月28日

抱卵中、親はときどき立ち上がり、卵を転がします。これは卵全体がまんべんなくあたためられるようにして、卵の中の胚の発育が進むようにするためです。

### ふ化当日

幼綿羽というふわ毛でおおわれたヒナは、ふ化当日から動き回ることができます。右側のヒナがこの日ふ化した2羽目のヒナですが足元はまだおぼつきません。'94年5月4日



### 暖をとる

ふ化後間もないヒナたちは、まだまだ自分の体温を調節、維持することができません。だから親の翼の下にもぐりこんで暖をとります。

'94年5月4日



### エサをもらう

'94年5月6日

若いヒナたちは歩くことはできて、エサはまだ自分でとることができません。親は、そのつとつまだエサをヒナの前まで持って行ってやります。

### エサを砕く

小さなヒナたちの口に合うように、魚の肉など大きなエサは、両親がふりまわすなどして、小さくして与えます。飛び散る魚の肉が写っています。



'94年5月6日

### はやい成長

ふ化後1ヵ月でこんなに大きくなりました。5ヵ月後には黄色い幼綿羽はなくなり、飛べるようになります。10ヵ月で親と変わらない大きさにまで成長します。



'94年6月5日

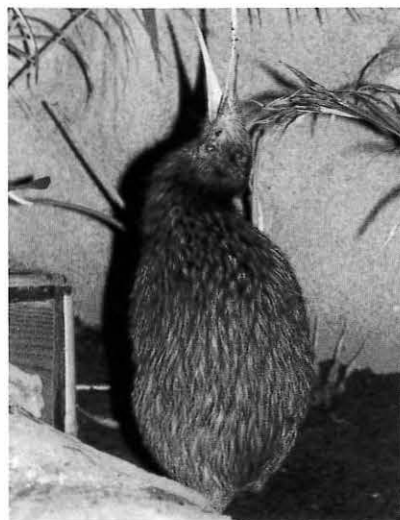
# 動物 なんでも 相談室

天王寺動物園のシンボルマークにもなっているキーウィの名前のいわれについて教えてください。

(奈良県・藤本幸子)

キーウィはニュージーランドの国鳥にもなっているニュージーランド特産の鳥です。ニュージーランドの先住民、マオリ族がその鳴き声からこの名前を付けました。夜行性のため夕方から夜にかけてキーウィッ、キーウィッと数km四方に届くと言われるほどの、甲高い大きな声でオスが鳴きます。天王寺動物園ではキーウィを現在、人工的に昼夜を逆転させた夜行性動物舎で飼育しているため、時に昼間の時間帯でも鳴き声を聞くことができます。

(飼育課：宮下 実)



大きな声で鳴いているキーウィ

キーウィの餌について教えてください。

(芦屋市・殿村彰久)

キーウィフルーツはキーウィの好きな果物なのですか。

(東大阪市・角谷陽子)

キーウィの好物はミミズや土の中の小昆虫です。当園でも以前はミミズを主として与えていましたが、現在は特製の人工飼料を主にして、間食程度にミミズを与えています。特製の人工飼料とは牛の心臓肉をミミズの太さ位に千切りにしたものに、オートミールをかけ、それにビタミン剤やミネラル剤を加えています。時にこの中にバナナなどの果物も混ぜますが、よく食べてくれます。

キーウィが初めて来園した1970年におもしろい実験をしたことがあります。牛肉、鶏肉、馬肉、卵黄、ドッグフード、すり餌、えんどう豆、キャベツ、レタス、ブドウ、干しブドウ、すりおろしたリンゴ・・・いろいろな餌を並べて嗜好性を確かめたことがあります。リンゴを少し食べた程度でした。その後、パンに入っている干しブドウや熟した柿、イチゴ、ミカンなど果物も少しは食べることが分かりましたが、キーウィフルーツは食べませんでした。

そもそもキーウィフルーツはニュージーランドの果物ではなく、中国が原産のものです。それがたまたまニュージーランドの気候、土壌が適したのでしょう。あつというまにニュージーランドを代表する果物になってしまいました。

ところでニュージーランド人は自分たちのことをキーウィと呼びますし、特産のものにもキーウィブランドを付けたりしています。キーウィフルーツの色、形がなんとなくキーウィに似ていることもあって、キーウィフルーツというピッタリの名前が付いたのでしょうか、決してキーウィの好物ではないということです。



キーウィというとやはりほとんどの人は果物を連想してしまいますよね。ところがキーウィはニュージーランドに7000万年前から存在した鳥です。キーウィフルーツの方は中国から渡ってきてまだ200年たらずの歴史しかありません。キーウィの本家本元は鳥だということをお忘れなく。

(飼育課：宮下 実)

- 5/ 1. エミューが1羽ふ化しました。
- 5/ 2. レッサーパンダ3頭にワクチンを注射しました。

**5月3日** タンチョウが1羽ふ化しました。ふ化したのは、3月31日に産卵した卵で、



ふ化日数は33日でした。(4月2日に産卵した2卵目は5月4日にふ化しました)。

**5月5日** “鳥の楽園”でシュバシコウがふ化しているのを確認しました。シュバシコウ



は木の上に多くの枝を使って巣をつくるため、ヒナがかなり大きくなるまで下から見つけることができません。

- 5/ 9. チンパンジーの“シュジー”と“プテリ”母仔の同居展示の練習をしました。
- 5/10. ヒクイドリが2卵目を産卵し、1卵目と同様、ふ卵器に入れました。有精卵であれば53日前後でふ化するでしょう。
- 5/11. ミゾゴイを1羽保護しました。
- 5/12. オオミズナギドリを1羽保護しました。レアが今季初めて産卵しました。
- 5/13. ミケリスが生まれましたが、まだ巣箱の中にいるので正確な頭数は不明です。

**5月14日** ニホンザルの赤ちゃんが1頭生まれましたが、母親が面倒を見ないため人工哺育にしました。



フサオマキザルの赤ちゃんが1頭生まれました。

- 5/16. チンパンジー“リッキー”と“ミナミ”の定期健康診断をしました。
- 5/17. アカハシハジロがふ化しました。

**5月17日** “ツル舎”でカナダヅルが1卵目を



## 今月もおもしろ情報満載



産卵しました。このつがいは3月24日に入園したもので、環境が変わったので産卵するかどうか心配していました。

有精卵であれば6月下旬にふ化するでしょう。

- 5/19. ニホンコウノトリ2羽を繁殖のため、富山市ファミリーパークに貸し出しました。
- 5/20. 今年初のニホンジカの赤ちゃんが生まれました。カナダヅルが2卵目を産卵しました。
- 5/21. 5月11日に保護したミゾゴイなど4種11羽の鳥が元気になったので自然復帰させました。
- 5/22. 今季6卵目のエミューがふ化しました。今季2頭目のニホンジカの赤ちゃんが生まれました。
- 5/25. トカラヤギの双仔の赤ちゃんが生まれました。
- 5/27. 今季3頭目のニホンジカの赤ちゃんが生まれました。

**5月28日** フクロウを1羽保護しました。このフクロウは今年ふ化したヒナで、まだふわふわしたヒナの羽で覆われていました。保護した方の手厚い看護で自分で餌を食べるようになていました。羽が生え変わるころ自然復帰させることができるでしょう。



- 5/29. 釣針を誤って飲み込んだコサギを1羽保護しました。
- 5/30. 暑くなってきたので、オウサマ、イワトビ、マカロニペンギンの3種19羽を冷房ペンギン室へ移動させました。

### お知らせ

- 動物園のおじさんのお話「サイのガイド」日時：7月17日(日) 午後1時から 場所：サイ舎
- 第20回サマースクール 7月21日(休)～26日(休) 第1組・21、22日 第2組・23、24日 第3組・25、26日
- ホッキョクグマに氷柱プレゼント 7月23日(休)
- テレフォンサービス 06-771-9999

愛ある暮らし、応援します。

# Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



## 生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光/監修  
B5変型判・オールカラー  
定価680円

動物園で暮らす様々な生き物達、  
自然の中ではどんな暮らしをして  
いるのか？ 動物園での世話  
の仕方は？ 仲間とは？ など、  
写真と精密イラストをまじえ紹  
介します。

くらしかいかたシリーズ<既刊本>

B5変型判・オールカラー・各定価680円

### むしくらしかいかた

野山でみかける身近な昆虫たち  
250種を紹介。

### ちいさないきものくらしかいかた

昆虫以外の小さな生き物を320  
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

オートフォーカスカメラに

# フジカラー SUPER HIG 400



ピントが合いやすいフィルムです

カメラの大林

桜橋本店 ☎341-8091  
阪急三番街店 ☎372-5031  
OHVAC店  
(ギャレ大阪) ☎346-7606

動物の生態を描く唯一の文学雑誌

# 動物文学

昭和九年平岩米吉によって創刊

本誌は生態研究を基礎として動物文献を収集整理する  
とともに、シートン、ザルテン、バイコフ等の諸作家  
を紹介した本邦動物文学の母胎です。

<研究・考証・記録・随筆・翻訳等を掲載>

会費/年1,500円(切手72円・呈既刊号目次)

## 動物文学会

〒152 東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話03(3717)1659・振替・東京5-9800

新作

貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」  
19分(10本常備)

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料510円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキでお申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)  
好評発売中 ¥800(50度用)

## 天王寺動物園の本

入園の記念・手引に……



オールカラー

500円

園内売店にあります。

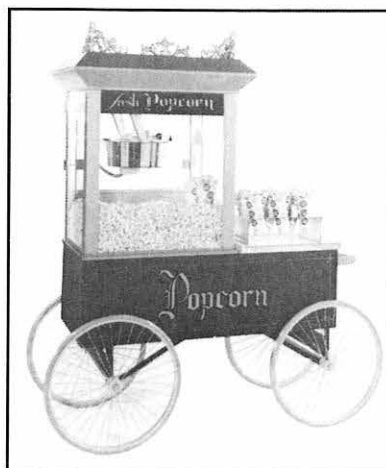
大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

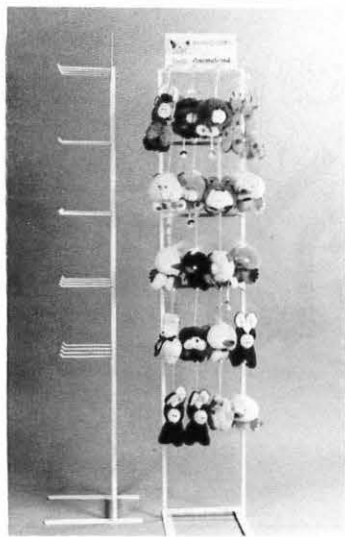
## マスターのポップコーン



<営業品目> 製造機械・保温機 他  
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

(株)増田食品 〒561 大阪府豊中市穂積1-10-30  
TEL (06)865-0165



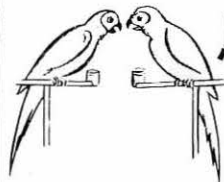


# 動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

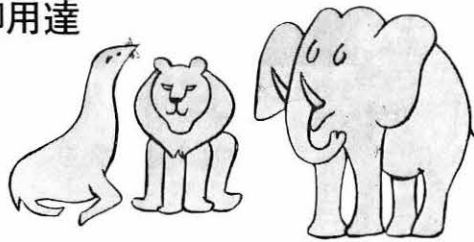
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号  
TEL : (06) 704-8580  
FAX : (06) 704-8565



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

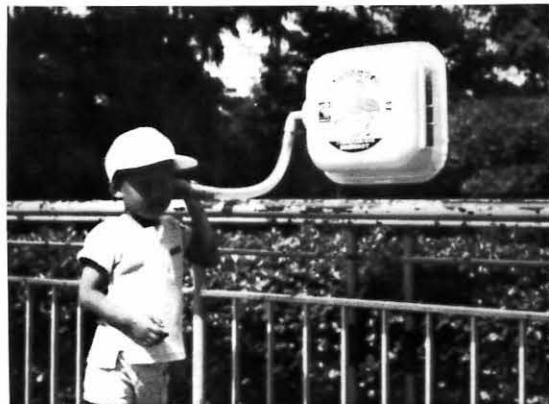
- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



## 有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号  
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地  
電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、  
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎  
30数カ所にあります

関西特機株式会社  
電話 06-762-2333  
1回 20円

動物園内での  
お食事、  
ご休憩は



動物園内.....

## 中央売店

TEL 06-771-0973

お食事・飲もの・おみやげ 動物園内  
**南園売店** TEL 06-771-7110



思いやり、ほんの少し、コアラのために。



多くの思いやりが、ひとつになって、オーストラリア・コアラ基金を応援します。

多くの人に支えられて育ってきたコアラのマーチ。

一方、コアラのふるさとオーストラリアでは、シドニー近郊の山火事などにより、コアラたちの安住の地が年々少なくなってきています。

そこで、ロッテでは、コアラのマーチ誕生10年を記念するキャンペーンを実施するとともに、

コアラを取りまく環境を守ろうと、オーストラリア・コアラ基金(1986年設立)のゴールドスポンサーになりました。

コアラのマーチを支えてくれる皆様の思いやりがひとつになって、オーストラリア・コアラ基金を応援いたします。

**LOTTE**





Our Yogurt has fruity  
and rich texture!!

“生イキヨーグル”と  
覚えてね。



新発売

ほりたてミルクのおいしさが、生きている。

雪印  
**オガール**

希望小売価格 130g/各120円 250g/各220円(税別)



HIJIRI-KOJIMA

一日  
愉快地  
たのしめる!!



◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。

久竹娛樂株式会社  
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ 1994年7月10日発行(毎月10日発行)第30巻 第7号(通巻347号)

編集/大阪市天王寺動物園事務所

発行人/大阪市天王寺動物園協会 土井良彦

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪 3-37823

編集委員

(中山良三郎/岩倉善樹/増野悦敏/樽本 勲/中川哲男/山根和弘/吉本昌俊/谷森 進/宮下 実/長瀬健二郎/榎原安昭/森本委利/中上正幸/堀内智生/小林崇宏/竹田正人/大野尊信/野口秀高/早川 篤/土谷正道/村上勇一/仁田原洋)